



ロータリーからの
プレゼント

長崎南ロータリークラブ

はじめに

ロータリアンの皆様はよく御存じだと思いますが、ロータリークラブに入会すると同時に、ロータリーはその会員に素晴らしいプレゼントの数々を贈ります。

そのプレゼントとは一体どんなものでしょうか？ また、それはどんな秘密の箱から出てくるのでしょうか。

この素晴らしいプレゼントの価値は、入会してみればじめて私達が体験し理解できる特典だと思います。未入会の方にもこの特典を知らせて下さい。きっと会員増強のために利用できる資料になると思います。

ロータリーには、三つの基本があります。

- ① 一職業・一会員制を原則にしています。
- ② 例会をはじめとして、ロータリーのあらゆる会合に、会員は出席するように奨励して

います。

③ 会員同士の親睦を深め、友情の輪を広げるように勧めています。

この三つの基本が、ロータリーがロータリアンの皆様に贈るプレゼントを取り出す秘密の箱なのです。

そのプレゼントとは一体何でしょうか？

I、質の良い素晴らしい数多くの友人達をプレゼントしてくれます。この世の中で良い友人を得ること、これほどの宝物はないと思います。

そしてまた、これを手に入れることは容易なことではありません。(これは、ロータリーの功德の第一に上げてても良いプレゼントでしょう)

II、社会での大きな信用をプレゼントしてくれます。

入会と同時に、貴方は地域におけるその職業の代表的な人物として莫大な信用を直ち

に獲得できます。何故ならば、一職業一会員制ですから、貴方の職業に関してクラブ内には貴方の右に出る人はいないからです。

その地域の職業を代表する第一人者としての信用がプレゼントされます。(社会的な信用の獲得↓それは社会でなかなか得難い大きな宝物です。)

III、社会の指導者に相応しい相互研修の場を、貴方にプレゼントしてくれます。(しかも楽しい食事時間付のことが多い)

ロータリーの会合の中には、自学自習する機会が大変に多いのです。

(社会学・世間学・人間学など、社会のリーダーとして必要な情報は特に豊富、各種の職業学、広い世界の特種まであります)

こうした例会内に散らばっている眼に見えないダイヤモンドを手に入れる入れないかは、会員自身が、それを自覚するかしないかの問題だと考えます。

ロータリーの会合こそ、自己研修の絶好の機会であります。そのまたとないチャン

スを生かすか殺すか、それは貴方次第です。「入りて学べ、出でて奉仕せよ。」「入りて学び自己改善せよ↓改善した自分を社会に役立てなさい」

〔Service above Self〕とは、「例会で自己改善に努めなさい、まず自己改善、その上に奉仕があるのですよ、そこに奉仕の機会があるのですよ」というロータリーの標語です。

ルールを守る、効率的な時間の活用、組織の運営、コミュニケーションの技術、好ましい人間関係のありかたなどを、自然に学ぶことができます。

例えば、失敗し恥ずかしい思いをしても「よくあることだよ」と友達が温かく包んでくれる、こんな素晴らしい友情の世界、これが、ロータリーなのです。

(多様性の尊重・思いやり・自他を区別せぬ寛容の精神、これを身につける研修です)
IV、ロータリーは、出席努力を続ける人に人生の三本柱をプレゼントします。

それは何でしょうか、ロータリーに出席を続けるために、ぜひ必要なことです。

① 自分自身が健康であること。

② 仕事が順調であること。

③ 家庭が円満であること。

いうならば、これは人生を支える基盤と言えるもの、即ち人生を支える三本柱です。

V、貴方の社会生活・より良い人生の保証をしてくれます。

① 「人間関係の保証」つまり「親睦の保証」をしてくれます。

会員は良質の専門職・職業人として入会を認められています。

この点は同質です。

同質だから親睦が容易にできます。

しかし 一職業・一会員制ですから、その点は異質です。

でも、そこに違った職業間の相互交流が可能です。

しかも同業者同士の無用な競合やトラブルはありません。

これも親睦に繋がります。

同質で、かつ異質。これがロータリー・クラブの大きな特徴です。

② 「向上の保証」つまり「学びの保証」があります。

「努むるところは向上奉仕」という歌詞があります。

同質で、しかも異質の世界の中に放り込まれた時、人は自分の限界を知るので、

その時、「他を大切にする、他の意見や考え方を尊重する心が生まれます。そこ
に、

③ 「多様性の保証」が生まれます。

「デモクラシーの保証」と言ってもよいと思います。

ロータリーは、「単一なものの考え方」つまり「こうでなければならぬ」という、
一方的なものの考え方を歓迎いたしません。

多種多様なものの考え方を尊重します。これは「一党独裁国家には馴染まない」と

いうことです。そうした国家にロータリーは誕生せず、生まれてもすぐに潰されてし
まう運命にありました。

(過去の日本がそうでした)

国家・民族・人種・宗教・イデオロギー・年齢などのギャップを超越した考え方、
むしろ「そのギャップを無くそうとする努力」がロータリーの中にあります。

特に、「団体中心的な思考」、「団結!・団体行動確保!・鉄の規律・硬直的な思考・
一方的な権力思考」を好みません。

自由を認めないということは、愚かな結果しか無いということを、良く知っている
からです。

「この旗の下に集まれ! 反対を粉砕せよ」というのは、屎々流血・闘争・戦争が繋
がり親睦を妨げます。

親睦を第一とするロータリーが、党中党を組むことを極力避けるのは、その結果が

親睦を阻害する原因となりやすいからです。

最後に、ロータリーは、良質なものの考え方を中心に自然に集まった団体です。

そこには集団的な圧力はありません。

個人の多様性を尊重した、要するに質的な集まりです。

同質の思考をもって相互親睦の基調とし、異質の思考をもって、相互研修の基調とする団体です。

多くの友達がいいて、くつろぎの中で、知らず知らずの内に社会のリーダーとしての能力を与えてくれる学園。こんなに優れたものが何処にあるでしょうか。

「ロータリーからの大きなプレゼント」に感謝をもって報いたいと思う心の動き、これがロータリーの「奉仕の実践」につながる原動力だと思えます。

この「心の動き」を家庭に職場に地域社会に、そして国際的な広い分野にも「ロータリーの奉仕活動」として分ち合い拡大するようにつとめましょう。

(長崎南ロータリークラブ 福井 順)

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成することにある。

I、奉仕の機会として知り合いを拡めること。

II、事業及び専門職業の道德的水準を高めること。あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が職業を通じて社会に奉仕するためにその職業を品位あらしめること。

III、ロータリアンすべてがその個人生活、職業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用すること。

IV、奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること。